

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和03年08月17日

計画の名称	地域の魅力と個性を活かしたネットワーク型コンパクトシティの形成											
計画の期間	平成28年度 ~ 平成31年度 (4年間)										重点配分対象の該当	○
交付対象	高崎市											
計画の目標	<p>本市は、新幹線や高速自動車道等、東日本や北陸エリアの広域ネットワーク結節点にあり、高崎駅は多岐の鉄道バス路線が乗り入れる県内随一の広域交通ターミナルである。高崎駅周辺市街地では、都市機能集約と基盤整備が進められている。一方、郊外住宅地や、合併旧町村の既成市街地では、不活性な土地利用が散見されるなど、都市としての不整合が懸念されている。</p> <p>このことから、高崎駅周辺市街地を「地域の魅力と個性を活かしたネットワーク型コンパクトシティ」の中核とし、特に本地区では「芸術文化」を感じ、公共交通の利便性がよいまちづくりを進め、高齢化と低炭素化社会へ向けた基盤施設の充実を図るとともに、都心居住のモチベーション向上とまちなか交流がさかんな都市環境創出を目指す。</p>											
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	7,248	A	7,248	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (R1末)
1	高崎駅と周辺公共公益施設等へのアクセス性と歩行環境に対する満足度について、525(H27)を566(R1)に上昇 駅周辺主要5地点で対面式により市民意向を調査する。(駅周辺施設へのアクセス性と歩行環境に関する満足度)	525%	540%	566%
2	まちなか交流(観光、買い物、散策等)の来街1回あたりの滞在時間について138(H27)を150(R1)に増加させる 駅周辺主要5地点で対面式により市民意向を調査する。(来街1回あたりの滞在時間)	138分	144分	150分
3	都市の魅力を高め、地区内の居住人口を、7,567人(H27)を7,718人(R1)に増加 地区内における居住人口を把握する。(住民基本台帳)	7567人	7642人	7718人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H28	H29	H30	H31	R02				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	高崎市	直接	高崎市	-	-	高崎市中心市街地地区都市再生整備計画事業	区域面積149.5ha、道路、地域生活基盤施設、高質空間形成施設	高崎市						3,520		-	
												小計						3,520		
住環境整備事業	A16-002	住宅	一般	高崎市	間接	民間	-	-	市街地再開発事業	高崎駅東口第九地区 PcaPC造28F	高崎市						3,728		-	
												小計						3,728		
											合計						7,248			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

高崎市で実施する。

事後評価の実施時期

令和3年3月

公表の方法

高崎市のホームページで公開する。

事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

【来街1回あたりの滞在時間延長】

・高崎駅を中心とした都市基盤の整備が進んだことによりアクセス性は向上したものの、立ち寄り箇所数の減少及び新型コロナウイルス感染症の影響により大規模イベントが開催されなかったことなどにより目標値には届かなかった。
・まちなかオープンカフェ事業、まちなかコミュニティサイクル事業により駅から離れたエリアにおける回遊性の向上が見られた。

【地区内居住人口】

・各基幹事業や関連事業（土地区画整理事業）による都市基盤の整備が進み、まちなか居住の機運が高まったことによりマンション建設が相次ぎ、居住人口の増加につながった。
・現時点では建設中のマンションが多く、人口増加はその後になるものと考えている。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

【駅周辺諸施設へのアクセス性と歩行環境に関する満足度向上】

・高崎駅西口及び東口ペDESTリアンデッキ整備事業による都市基盤整備の成果が評価された。
・高崎駅西口駅前広場整備事業により駅利用者の利便性が向上した。

特記事項（今後の方針等）

・まちなか滞在時間が長くなるよう、居心地の良いまちなか環境を創出する。
・高崎駅周辺の魅力と都市機能をさらに充実し、公共交通結節点を中心とした、本来のまちなか外周型回遊性ルートを再構築し、来街者や散策者の移動範囲が、中心市街地の広域にわたることを目指す。

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	駅周辺諸施設へのアクセス性と歩行環境に関する満足度向上	
	最終目標値	566% _o
	最終実績値	752% _o
2	来街1回あたりの滞在時間延長	
	最終目標値	150分
	最終実績値	142分
3	地区内居住人口	
	最終目標値	7718人
	最終実績値	7697人